

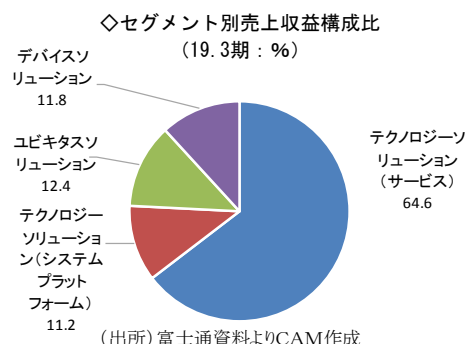
企業ニュース 富士通

(東証1部 : 6702) <https://www.fujitsu.com/jp/>

作成者: 奥村義弘

グローバルICT企業

1935年設立。テクノロジーをベースとしたグローバルICT（情報通信技術）企業。現在の事業は、テクノロジーソリューションでは主に法人向けにITを活用したビジネスソリューション、ユビキタスソリューションではパソコン、モバイルウェア、デバイスソリューションではLSI、電子部品などを提供している。経営資源をコア事業であるテクノロジーソリューションに集中する変革を推進中で、個人向けパソコン・携帯電話・一部の半導体事業を独立事業として切り出し、欧州事業の再編にも取り組む。またAIビジネス推進のための新会社設立、5Gでのエリクソンとの提携など成長領域を増強している。



第1四半期は国内サービスを中心に順調なすべり出し

20.3期・第1四半期（4-6月）の連結業績は売上収益が8,387億円、前年同期比3%減、営業利益が34億円、同96%減。デバイスソリューションを主とした再編影響が500億円、為替影響が80億円あり、前年同期比3%減収となったが、実質的には同300億円の増収、営業利益は年金制度の変更やPC事業譲渡益の影響など特殊要因を除くと同330億円の増益。テクノロジーソリューションの国内サービスが好調、同海外サービスは、為替の影響もあり同8%減収と底打ち感には乏しいが、不採算事業の抑制や営業費用の効率化などで収益性は改善した模様。

20.3期の会社計画は売上収益が3兆7,500億円、前期比5%減、営業利益が1,300億円、同微減。テクノロジーソリューションは同1%増収、営業利益が2,360億円、同26%増。うち国内は同3%増収の計画だが、第1四半期に続き第2四半期以降も好調が持続する見通しで計画は保守的であろう。海外は、第2四半期以降に構造改革費用の順次計上が見込まれる点には注意したい。21.3期は後半より5G関連での産業向け案件の大型化・本格化が予想され、当社業績への寄与が期待できよう。

【株価動向・投資判断】

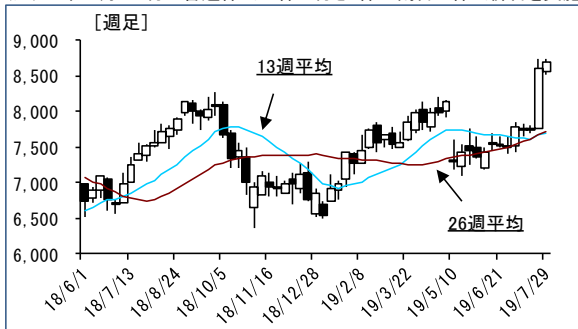
決算発表後株価は急伸したが、IT大手として、割安なバリュエーションである。5G関連など中長期での需要見通しも良好で、評価が高まる可能性がある企業と言えよう。

<6702 富士通 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益 百万円 (伸び率)	営業利益 百万円 (伸び率)	税引前利益 百万円 (伸び率)	当期利益 百万円 (伸び率)	1株利益 円	1株配当 円
18.3	4,098,379 (▲1)	182,489 (55)	242,488 (95)	169,340 (91)	82.5	11.00
19.3	3,952,437 (▲4)	130,227 (▲29)	161,785 (▲33)	104,562 (▲38)	512.5	87.00
20.3 予	3,750,000 (▲5)	130,000 (▲0)	- (-)	105,000 (0)	518.1	160.00

(注) 18年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施。19.3期の1株配当は、第2四半期末の7円と期末の80円の単純合算値で表示。



[主要株価指標] (売買単位: 100株)

株価 (2019/7/29)	8,698 円
年初来高値 (高値日)	8,743 円 (19/7/29)
同 安値 (安値日)	6,495 円 (19/1/4)
予想 P E R (20.3 予)	16.8 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	5,522.4 円
P B R	1.58 倍
予想配当利回り	1.84 %
(1株当たり配当金年160.00円)	
R O E (19.3)	9.4 %
発行済み株式数	20,700 万株